

浄性につき統計的な検討を加えた結果を報告する。

2 試布は木綿、スフ、麻、羊毛、絹、ビニロン、ナイロン、ボンネル、アセテート、テトロンの10種類、汚染性は、人工標準汚染布の調製法に準じ、同一量のカーボンブラックで各試布を汚染し、その汚染布反射率と原布白度より汚染率を出して汚染性を検討した。洗浄性は各試布を表面反射率  $30 \pm 20\%$  に調製し、高級アルコール洗剤 ( $D_1$ ) とアルキルフェノール型の非イオン活性剤 ( $D_2$ ) を用い、 $D_1$  は  $0.05\%$ 、 $0.1\%$ 、 $0.3\%$ 、 $D_2$  は  $0.01\%$ 、 $0.05\%$ 、 $0.1\%$  の三段階の濃度とし、温度  $40 \pm 1^\circ\text{C}$  洗浄時間 30 分として洗浄試験を行った。

3 汚染性はナイロン、アセテート、テトロンの最も低く、羊毛、木綿、ビニロンは大である。洗浄性は主効果より判定すると、 $D_1$  ではナイロン、絹、木綿が優れ特にナイロン、絹はビニロンを除く他の繊維より1%の有意差で洗浄性が優れ、ビニロンより5%の有意差でよい。 $D_2$  ではナイロンの洗浄性がよく、絹、木綿より1%の有意差で優れ、 $D_1$  と異った洗浄性を示したのはテトロンで絹、木綿について洗浄性がよい。スフ、アセテートは  $D_2$   $D_1$  共に洗浄性が悪い、濃度効果は  $D_2$  が  $0.01\%$ 、 $0.05\%$  の低濃度で  $D_1$  の  $0.05\%$ 、 $0.1\%$  より優れた洗浄性を示した。

#### 49 各種繊維の汚染性並に洗浄性に関する研究

長崎大学芸 石崎 ダイ

1 化学繊維の発達に伴い、近年被服繊維の種類が非常に多くなった。従って之等繊維の特性を知り適切な処理をする事が、品質保持上極めて大切と思われる。そこで筆者は衣類整理の面から10種類の繊維の汚染性と洗